

# 臨床推論演習 I

科目責任者 鈴木圭輔  
学年・学期 4学年・後期

## I. 前 文

4学年の前期までに臨床科目の講義は全て終了している。後期はCBT対策や5学年から開始される臨床実習の準備を行い、卒業試験、そして国家試験合格に向けて着実に力をつけていく時期である。“臨床参加型”実習を実現させるために、臨床推論演習 I では医学教育モデルコアカリキュラムの“臨床推論”に沿って、各分野における症状や病態について、病歴、診察、検査から鑑別診断を行って正確な診断につなげることを目標とする。各授業には実際の症例問題を例にして、分野によってはさらなる理解を深めるため統合型講義（基礎医学と臨床医学）も行う。学生が事前に予習がしやすいように講義計画表には関連する領域の実際の国家試験の問題番号を記載してある。この演習は5学年から始まる臨床実習や6学年の学習にも極めて有用なはずである。

## II. 担当教員

内科学（神経）	（鈴木圭輔）
内科学（血液・腫瘍）	（三谷絹子）
内科学（腎臓・高血圧）	（頼健光）
内科学（内分泌代謝）	（麻生好正）
内科学（リウマチ・膠原病）	（池田啓）
精神神経医学	（古郡規雄）
放射線医学	（曾我茂義）
整形外科	（種市洋）
泌尿器科学	（釜井隆男）
耳鼻咽喉・頭頸部外科学	（春名眞一）
産科婦人科学	（三橋暁）（成瀬勝彦）
救急医学	（和氣晃司）
リハビリテーション科学	（美津島隆）
病理診断学	（石田和之）
総合診療医学	（志水太郎）
生理学	（神作憲司）
微生物学	（増田道明）
薬理学	（藤田朋恵）
熱帯病寄生虫病室	（川合覚）

## III. 一般学習目標

- （1）重要な疾患を持つ患者さんの問題点を分析し、解決する能力を得る。
- （2）臨床実習前に臨床推論演習を行う事により、臨床実習の効果を高める。
- （3）思考能力を高め、6学年での国家試験を視野に入れた学習にスムーズに適応する。

## IV. 学修の到達目標

- （1）各コマで与えられた症状や病態について、問題点、病態生理、診断、治療などを理解する。
- （2）臨床実習に応用出来るように、理解の幅を広げる。
- （3）必須な知識の獲得のみならず、6学年までこれらの能力を保持出来るようにする。

V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))

2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	7	18	火	1	2-31) 不安・抑うつ 113-F-67, 114-C-57, 115-D-28	精神神経医学 古 郡 規 雄	1
2		18	火	2	2-34) 運動麻痺・筋力低下 113-A-47, 113-A-64, 115-D-18	内科学(神経) 鈴 木 圭 輔	1
3		18	火	3	2-34) 運動麻痺・筋力低下 114-A-30, 115-D-48, 116-A-69	リハビリテーション科学 入 澤 寛	1
4		18	火	4	2-34) 運動麻痺・筋力低下 115-B-32, 115-E-35, 116-A-29, 116-B-25	生 理 学 福 島 央 之	1
5		18	火	5	2-1) 発熱 115-A-75, 115-D-45, 116-D-69	総合診療医学 坂 本 哲	1
6		19	水	1	2-35) 腰背部痛 115-D-37, 115-E-35, 116-F-35	整形外科学 稲 見 聡	1
7		19	水	2	2-36) 関節痛・関節腫脹 113-A-17, 114-F-43, 115-D-58	内科学(リウマチ・膠原病) 新 井 聡 子	1
8		19	水	3	2-36) 関節痛・関節腫脹 115-C-57, 116-D-38, 116-D-74	整形外科学 富 沢 一 生	1
9		19	水	4	2-37) 外傷・熱傷 113-A-22, 113-B-36, 114-A-63	整形外科学 瓜 田 淳	1
10		19	水	5	2-37) 外傷・熱傷 112-F-63, 115-F-60~62	救急医学 和 氣 晃 司	1
11		19	水	6	2-35) 腰背部痛 113-A-53, 114-C-69~71, 114-D-73, 115-D-73	放射線医学 熊 澤 真理子	1
12		20	木	2	2-1) 発熱 99-A-59, 110-E-55, 115-C-15	熱帯病寄生虫病室 川 合 覚	1
13		20	木	3	2-26) 貧血 113-A-30, 113-A-48, 114-D-32	内科学(血液・腫瘍) 佐々木 光	1
14		20	木	4	2-27) リンパ節腫脹 114-A-60, 115-B-50, 116-F-58	内科学(血液・腫瘍) 今 井 陽 一	1
15		20	木	5	2-27) リンパ節腫脹 110-D-52, 113-D-30, 114-A-43	耳鼻咽喉・頭頸部外科学 深 美 悟	1
16		20	木	6	2-28) 尿量・排尿の異常 111-B-41, 113-E-36, 115-A-26	内科学(内分泌代謝) 飯 嶋 寿 江	1
17		21	金	1	2-28) 尿量・排尿の異常 114-A-34, 114-C-55, 115-C-43	泌尿器科学 木 島 敏 樹	1
18		21	金	3	2-29) 血尿・タンパク尿 113-E-38, 114-A-55, 116-F-53	泌尿器科学 別 納 弘 法	1
19		21	金	4	2-29) 血尿・タンパク尿 111-A-25, 114-D-53, 115-D-63	病理診断学 小 野 祐 子	1
20		21	金	5	2-29) 血尿・タンパク尿 113-A-43, 113-D-50, 116-A-40, 116-D-45, 116-F-53	薬 理 学 藤 田 朋 恵	1
21		21	金	6	2-30) 月経異常 113-D-47, 115-D-36, 115-F-37, 116-A-44	産科婦人科学 尾 林 聡	1
22		21	金	7	2-29) 血尿・タンパク尿 106-A-53, 107-A-39, 109-A-39, 109-I-73, 110-A-52	内科学(腎臓・高血圧) 里 中 弘 志	1
23		24	月	1	2-32) 物忘れ 114-D-19, 115-D-57, 115-F-69	生 理 学 野 元 謙 作	1
24		24	月	2	2-32) 物忘れ 107-B-49~51, 113-A-25, 115-A-24	精神神経医学 川 俣 安 史	1
25		24	月	3	2-33) 頭痛 115-B-29, 115-B-44	内科学(神経) 鈴 木 圭 輔	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
26	7	24	月	4	2-33) 頭痛 114-A-73, 115-B-48, 116-A-73, (114-E-33, 116-B-21)	総合診療医学 鈴木有太	1
27		24	月	5	2-33) 頭痛 116-A-73	微生物学 増田道明	1

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

定期試験（85%）、ミニテスト（5%）、出席状況（10%）の成績をもって評価する。

ただし総合的な判断により変更もありうる。

#### VII. 教科書・参考書・AV資料

- (1) 今までに各科で指定した教科書および推薦図書。
- (2) Question Bank, Approach, 114, 115, 116回医師国家試験問題解説書。
- (3) 国試114～116, 医学書院
- (4) イヤーノート, メディックメディア

#### VIII. 質問への対応方法

随時、受け付ける。但し、事前に秘書を通じ、アポイントを取ること。

## IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

## X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題（試験やレポートなど）については，提出され次第随時評価しフィードバックする。

## XI. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間 \*（ ）内は必要な時間の目安

求められる事前学習：各授業の症例問題を前もって必ず取り組むこと。（20分）

求められる事後学習：各授業の症例問題について配布資料で復習する。（15分）

## XII. コアカリ記号・番号

2-1) 発熱

2-26) 貧血

2-27) リンパ節腫脹

2-28) 尿量・排尿の異常

2-29) 血尿・タンパク尿

2-30) 月経異常

2-31) 不安・抑うつ

- 2-32) もの忘れ
- 2-33) 頭痛
- 2-34) 運動麻痺・筋力低下
- 2-35) 腰背部痛
- 2-36) 関節痛・関節腫脹
- 2-37) 外傷・熱傷